

オークランド国際空港 10:15 発で香港に行き、その後台北に行く予定だったが、チェックイン後 11:30 発に変更になり、「乗り継ぎは大丈夫なのだろうか…」と不安だったものの、1 時間も遅く出発したが定刻に到着し、「どういうことなのか？」と不思議に感じるフライトであった。香港空港に着くと「乗り継ぎがある人は先に降りて」というアナウンスがあり、急いで降りると私の名前が書かれた紙を持ったグランドスタッフがいて驚いたものの香港空港から海外に出国の手続きもグランドスタッフが全て保安官に説明してくれて5分程度で済んだ。異なる航空会社での乗り継ぎだったため上手く搭乗手続きが出来ていなかったのか搭乗ゲートで更にパスポートや航空チケットの確認があり、ようやく台湾に向けて出発することが出来た。

無事入国も済み、タクシーで借りていたアパートに到着したが夜でも蒸し暑くオークランドとの寒暖差に驚いた。

毎日最高気温が毎日 37℃近くになり湿度も高いため、常に水泳授業のプールサイドにいるような感覚で食事や飲み物を買に行くだけでも汗だくで、北海道出身の私には少し過酷な環境であり、歩いて行動するのが辛い暑さの日が多くタクシー行動で交通費がかさんでしまった。また毎日水分を意識してとったり、栄養が偏らないように食事にも十分意識していたため食費もかかってしまったが、熱中症で海外の病院にかかるより最善であったと思う。今後の研修生でこの時期に台湾に行く方がいらっしゃったら無理せずタクシーを使用したり、栄養に気を付けるよう助言したいと思う。



台湾では「Taipei Utopia Montessori Elementary School 滿兒圓小學自學團體」でモンテッソーリ教育について学ばせていただいた。リサーチ活動だけでなく、小学校では教科のお仕事を見学させていただいた。「Taipei Utopia Montessori Elementary School 滿兒圓小學自學團體」は1～3年生の子が通学されていたが、日本の小学校ではまだ学ばないような内容、例えば小学2年生で小数通しの掛け算等マテリアルを通して楽しそうに勉強する姿が印象的であった。アポイントメントをとった際には質問をする時間を作ることは難しいと言われていたものの、最終日には見学した上での疑問点を質問させていただく時間を作ったいただき、日本と同じような問題を台湾でも抱えていることを教えていただいた。学びは報告書にて記載する。





研修後には通訳をお願いしていた方と台湾料理を楽しんだり、休みの日には九份や夜市に行った。ジブリの映画「千と千尋の神隠し」のモデルである景色を見た。台湾は親日の方が多く日本語で話しかけてくれたり、どの電車に乗るのか確認していた時飲食店で相席になった際に「ダイジョブ？」と助けてくれる人が多かった。

研修が始まった5月は「2か月も職場を離れること、家族と離れること」「初めて海外で過ごすこと」「食や文化の違い」「言葉の壁」等様々な要素があり、「2か月は自分にとって長かったのでは？」と不安になることも多かったが、最終国の台湾につくと「もう終わってしまうんだ」「もっと色々な教育現場を見たい」という気持ちが大きくなっている。

たくさんの学びとたくさんの思い出に溢れていて夢のような2か月であった。帰国してからは学んだことをまずは当法人の職員、その後市内の保育現場に伝えていけるように頑張っていきたいと思う。

このような機会を与えてくださった中央競馬馬主社会福祉財団様、協力してくださった当法人の職員、快く送り出してくれた家族に日々感謝しながら「子どもたちの幸せ」のために働いていきたいと思う。

